

内閣府

第3回成長のための人的資源活用検討専門チーム

提出資料

2013年3月18日

一橋大学 小塩隆士

報告内容

論点 1 : 賃金決定要因の変化

三谷直紀・小塩隆士「日本の雇用システムと賃金構造」
『国民経済雑誌』 206(3), 2012, pp.1-12

論点 2 : エントラップメント・シナリオの妥当性

Oshio, T. and Inagaki, S., “Does initial job status affect midlife outcomes and mental health? Evidence from a survey in Japan,” *CIS DP* 585, 2013.

論点 1 : 賃金決定要因の変化

背景 : ALM 仮説 (Autor, Levy, and Murnane (2003, *QJE*))

IT 化やオフショア生産の増大など労働需要側の変化が労働市場の構造変化をもたらす

タスク (仕事) の 3 つのタイプ

1. 非定型的な肉体的作業
2. 定型的な作業
3. 非定型的で知的・精神的な作業

⇒労働は第 1、第 3 のタイプに二極分化

仮 説

賃金関数の推計において、労働供給側の要因であるスキル（学歴や年齢など）の説明力が低下し、労働需要側の要因を反映するタスク（職種・職階）の説明力が高まっている。

データ

厚生労働省「賃金センサス」（1989～2004年の個票）

職種・職階＝89種（うち職階は5種）

毎年 それぞれ 20万人程度のサンプル

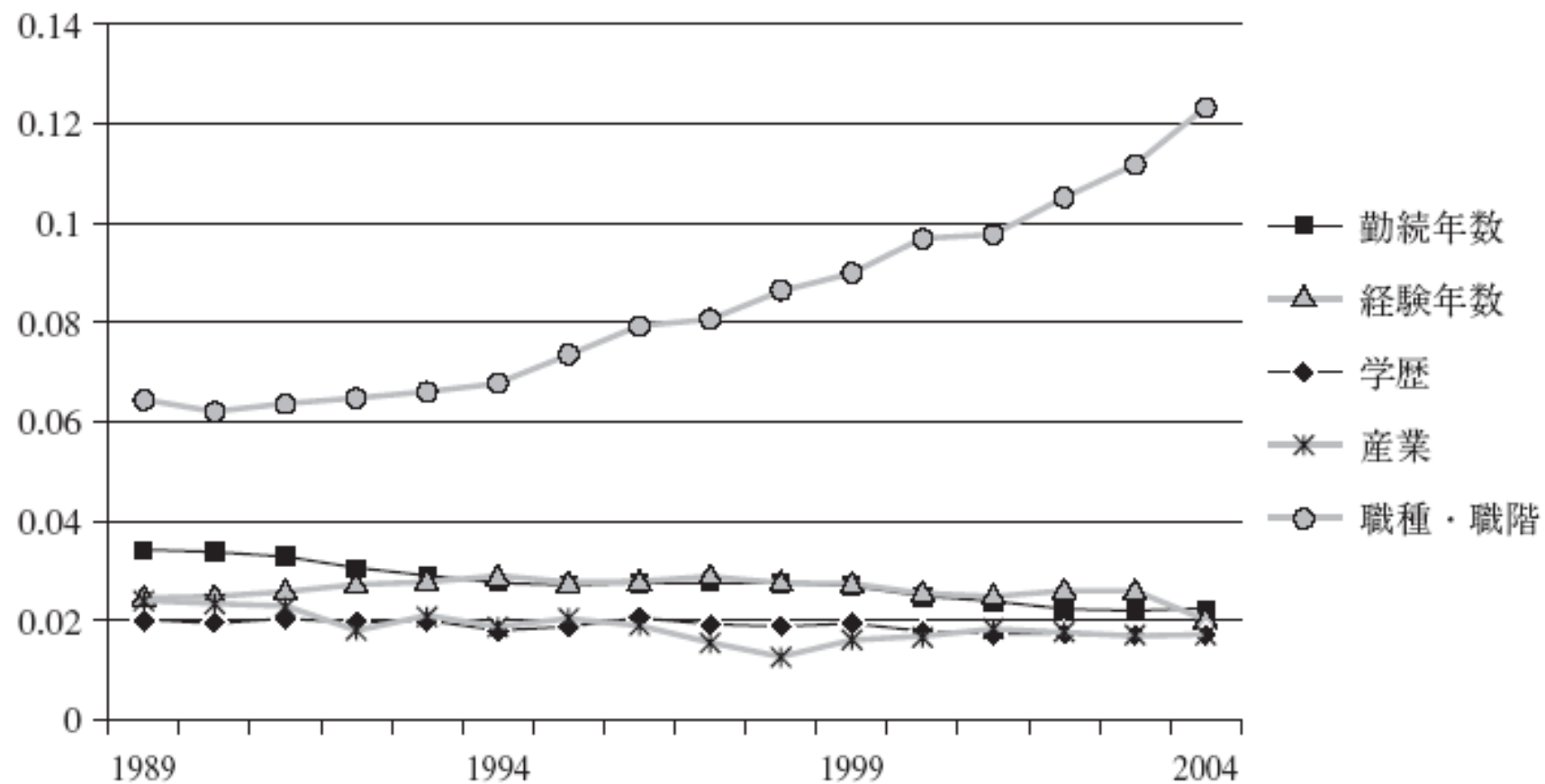
分析方法

- 各年において、賃金を、①勤続年数、②経験年数、③学歴ダミー、④産業ダミー、⑤職種・職階ダミーで説明する回帰式を推計し、修正済み R^2 を計算。

[* ①、②は二乗項、交差項を含む]

- 次に、①～⑤を説明変数から除き、修正済み R^2 がどれほど低下するかで各要因の説明力を大まかに把握。

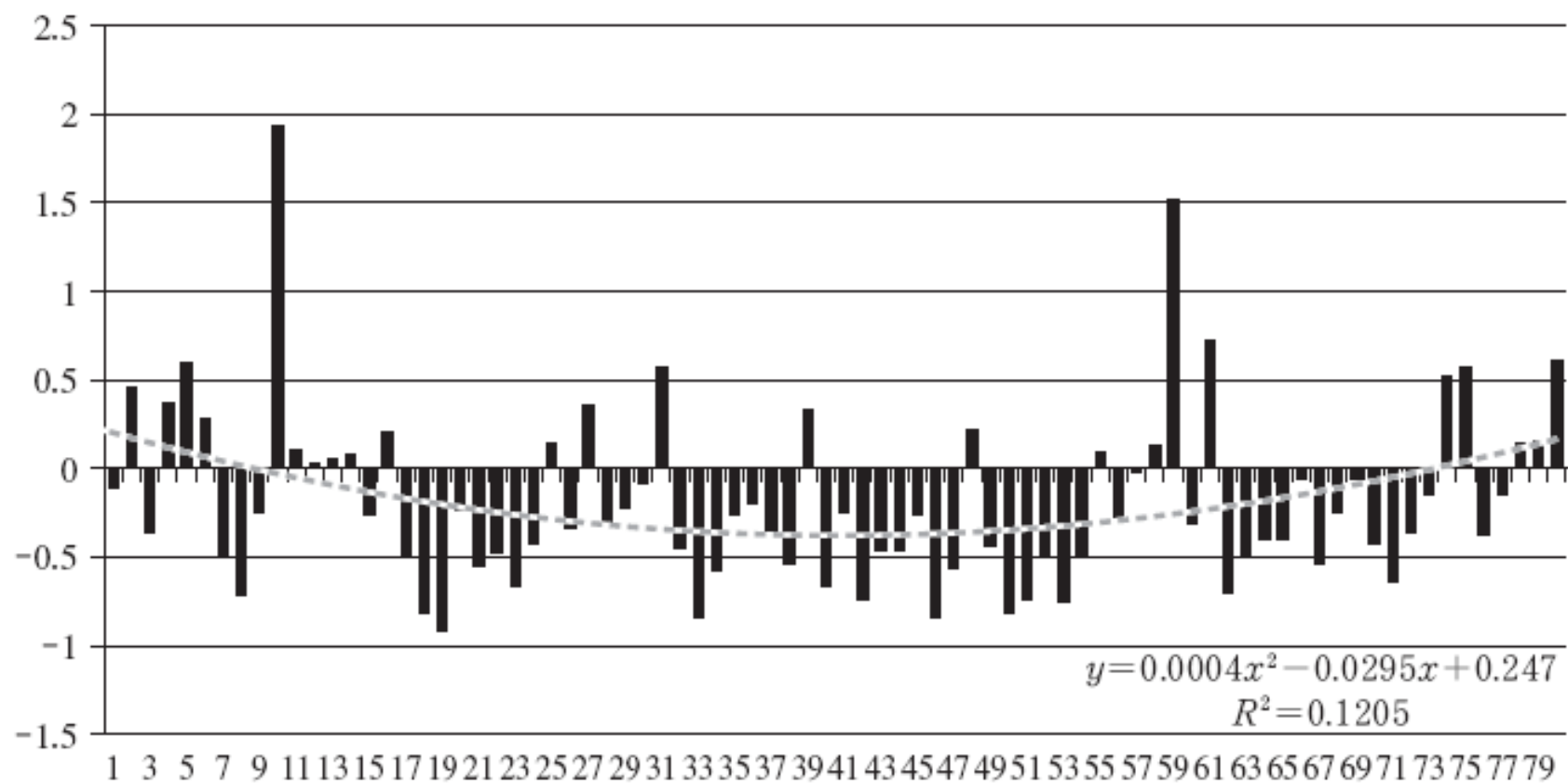
図7 各説明変数の説明力の推移
 (企業規模100人以上, 男性, 職種・職階ありサンプル)



雇用増の二極分化

- 1989年の賃金関数を推計し、各職種のダミー変数につく係数を賃金プレミアムとする。
- 職種を賃金プレミアムの低いものから高いものに並べ、1989～2004年におけるそれぞれの雇用者数の増加を比較。

図13 職種賃金プレミアム順位別雇用増減率（1989年～2004年）



(注1) 横軸は、賃金関数の推計による各職種の賃金プレミアムを大きさの順位を示す。

(注2) 点線の曲線は、二次式の近似曲線を示す。

論点1：まとめ

- 賃金の決定要因として、労働供給側の要因であるスキルの重要性が低下し、労働需要側の要因を反映するタスクの重要性が上昇。
- 雇用面では、賃金の低いタスクと高いタスクへの二極分化が進行（ALM 仮説と整合的）。

論点2：エントラップメント・シナリオの妥当性

先行研究

- ステッピング・ストーン（踏み石）シナリオ
欧州では、非正規スタートでも長期的には追いつける傾向が強い。
- エントラップメント（罟）シナリオ
日本では、非正規スタートだとそこから抜け出せない傾向が強い。

データ

- LOSEF (Japanese Longitudinal Survey on Employment and Fertility) [特別推進研究「世代間問題の経済分析」(研究代表者：高山憲之)の一環として実施]
- サンプル=5,935人(30歳代1,965人, 40歳代1,916人, 50歳代2,054人; 男性3,117人, 女性2,818人)
- 「ねんきん定期便」の情報を転記してもらい、過去の就業・賃金情報を完全に把握

分析方法

- Recursive bivariate probit model

中年期のアウトカム = F_1 (初職が不安定, covariates)

初職が不安定 = F_2 (卒業時の労働需給変数, covariates)

- 中年期のアウトカム = 足元の就業状況、職業キャリアの安定性、世帯所得、婚姻状態、抑鬱の程度

- 卒業時の労働需給変数 = 都道府県別有効求人倍率、全国の新規比率

初職が不安定だと... (限界効果)

	男性	女性
現職が不安定	0.556 ^{***}	0.606 ^{***}
職業キャリアが不安定	0.463 ^{***}	0.781 ^{***}
世帯所得が貧困線以下	0.417 ^{***}	0.010
未婚	0.570 ^{***}	0.430 ^{***}
抑鬱 (一般的なストレス ; K6 ≥ 5)	0.463 ^{***}	0.535 ^{***}
抑鬱 (重症精神障害 ; K6 ≥ 13)	0.275 [*]	0.545 ^{***}

(^{***} $p < 0.001$, ^{**} $p < 0.01$, ^{*} $p < 0.05$)

最初のつまずきは、心の傷として長く残る

抑鬱（一般的なストレス；K6 \geq 5）への影響（限界効果）

モデル	1	2	3	4	5	6
男性						
初職が不安定	0.463 ^{***}	0.432 ^{***}	0.395 ^{***}	0.420 ^{***}	0.393 ^{***}	0.359 ^{***}
現職が不安定		0.141 ^{***}				0.070 ^{**}
職業キャリアが不安定			0.118 ^{***}			-0.003
世帯所得が貧困線以下				0.201 ^{***}		0.133 ^{***}
未婚					0.167 ^{***}	0.127 ^{***}

論点 2 : まとめ

- 日本では、初職が正規以外だと、就業状態を始め、その後の人生のアウトカムがかなり不利に。
- その影響は、精神健康面でも長く残る。

以 上
ありがとうございました